

実績報告書

届出者	住所	大阪府八尾市弓削町南1-18	氏名	株式会社シーズクリエイト 代表取締役 宮城 正一
特定事業者の主たる業種		15印刷・同関連業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		<ul style="list-style-type: none"> ● 商業印刷を中心とした、出版・コミュニケーションツールなどの総合印刷 ● 折込チラシ・DM・カタログ・パンフレット・フリーペーパーなどの企画制作 ● 商業印刷機6台所有 		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
2017 年	4 月	1 日	～	2020 年	3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2016)年度	前年度(2018)年度
温室効果ガス総排出量	4,889 t-CO ₂	4,554 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,308 t-CO ₂	4,943 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2019 年度)	第1年度 (2017 年度)	第2年度 (2018 年度)	第3年度 (2019 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース) %	%	%	%
		削減率(原単位ベース) 3.0 %	-0.4 %	3.1 %	%
削減率(平準化補正ベース)		3.0 %	-0.4 %	3.1 %	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(生産量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 乾燥炉への遮熱施工を実施→放熱を抑制及びガス消費量を抑制 2. 基幹サーバーを高効率タイプへ更新 3. 湿水冷却装置を高効率タイプへ更新 4. 非常照明及び誘導灯をLEDに交換
--

(2) 推進体制

<p>全社的に温暖化対策に取り組む為、エネルギーマネジメントシステムを導入済み</p> <p>エネルギー管理委員会を設置し省エネ及び温室効果ガス削減への取り組みを進め、毎月の進捗状況を報告し現状改善などを検討しています。</p>
--

実績報告書

届出者	住所	大阪府箕面市半町3丁目13-4	氏名	株式会社ジーライオンレンタリース 代表取締役 岡本 眞一
特定事業者の主たる業種		95 その他のサービス業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		レンタカー事業		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
2017 年	4 月	1 日	～	2020 年	3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2016)年度	前年度(2018)年度
温室効果ガス総排出量	1,341 t-CO ₂	1,479 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	1,341 t-CO ₂	0 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2019 年度)	第1年度 (2017 年度)	第2年度 (2018 年度)	第3年度 (2019 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	30.5 %	-10.3 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		%	%	%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>レンタカーという事業形態であることから、事業を進展させていくと当然のごとく配備車両が増加し二酸化炭素等排気ガスの排出量を上げてしまい、社会的要請と真逆の道を歩んでしまうことを懸念している。</p>
<p>現在の取り組みとして、環境負荷の高い車両をリースアップし、軽自動車やハイブリッド等の環境負荷の低い車両転換を展開し、アイドリングストップやエアコン上限下限設定、営業時間短縮を実施。</p>

(2) 推進体制

<p>本部機能を本社に置き、そこから事業統括部長を経由して各店長に指揮命令が下りる体制を確立。各店長をサポートする従業員が実際に配車等の業務を行うアルバイト社員に指導する体制を取っている。安全や環境に関する意識醸成を推進している。意識醸成のための施策(朝礼や張り紙)は本部より発信し体制通りに周知指導徹底している。</p>

実績報告書

		東京都千代田区 大手町一丁目1番2号	氏名	JXTGエネルギー株式会社 代表取締役社長 大田 勝幸 印
特定事業者の主たる業種		17石油製品・石炭製品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		石油製品の製造、販売 原油を原料とし、主製品としてLPG、ガソリン、灯油、軽油、重油、石油化学製品(TBA、パラキソル他)を製造している。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	2017 年 4 月 1 日～ 2020 年 3 月 31 日 (3年間)
----------	---------------------------------------

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2016)年度	前年度(2018)年度
温室効果ガス総排出量	1,237,404 t-CO ₂	1,068,306 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	1,237,674 t-CO ₂	1,069,904 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2019 年度)	第1年度 (2017 年度)	第2年度 (2018 年度)	第3年度 (2019 年度)
選択	レ	%	%	%	%
	レ	3.0 %	-4.6 %	-3.7 %	%
削減率(平準化補正ベース)		3.0 %	-4.7 %	-3.8 %	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(生産数量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

2018年度は、台風21号被害による弊社堺製油所の一部装置の計画外停止等の影響のため、製油所の生産数量が約17%低下し、温室効果ガス排出量は原単位ベースで基準年比103.8%(平準化補正ベース)となりました。しかしながら、温室効果ガス総排出量は基準年と比較して減少しており、また、計画された省エネ対策等の活動を確実に実行しています。

(2) 推進体制

弊社 堺製油所では、エネルギー効率改善状況とエネルギー削減項目の進捗状況について、製油所のマネジメントへの報告と達成状況のチェックを目的として、月次の省エネ会議を開催しています。また、運転部門でも同様に月次の省エネ会議を開催し、新規案件の発掘や進捗状況の管理を行い、日常運転におけるエネルギー使用の合理化を図っています。更に、日常の生産活動におけるエネルギー使用の合理化を図るため、日次の省エネ会議を開催し、当日にできる省エネを確認し、運転調整しています。

また、支店においてはISO14001による管理を徹底している。

実績報告書

届出者	住所	大阪市西淀川区竹島2-3-18	氏名	シノプフーズ株式会社 代表取締役社長 松本 崇志
特定事業者の主たる業種		9食料品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		米飯加工食品（弁当、おにぎり、お寿司等）・調理パン（サンドイッチ等）・惣菜などの製造販売		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
2017年	4月	1日	～	2020年	3月31日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2016)年度	前年度(2018)年度
温室効果ガス総排出量	9,434 t-CO ₂	9,151 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	9,837 t-CO ₂	9,612 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2019年度)	第1年度 (2017年度)	第2年度 (2018年度)	第3年度 (2019年度)
選択	削減率(排出量ベース)	%	%	%	%
	レ 削減率(原単位ベース)	3.0%	9.0%	17.1%	%
削減率(平準化補正ベース)		3.0%	8.0%	16.5%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(大阪市内の工場総売上高)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>新規機械の導入や高効率機器の入れ替えなどにより順調に削減できていると考えます。</p>
--

(2) 推進体制

<p>全社として温暖化対策に取り組むために各対象事業所長を責任者とした泰正にて、目標達成に取り組んでおります。</p>

実績報告書

届出者		住所		大阪府貝塚市二色中町8-4		氏名		昭和ステアテクノ株式会社 代表取締役社長 植野 徳仁	
特定事業者の主たる業種				31輸送用機械器具製造業					
該当する特定事業者の要件				レ		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者			
						大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者			
						大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者			
事業の概要				自動車部分品・附属品製造					

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
2017 年	4 月 1 日～ 2020 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2016)年度	前年度(2019)年度
温室効果ガス総排出量	3,229 t-CO ₂	2,998 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,554 t-CO ₂	3,296 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2019 年度)	第1年度 (2017 年度)	第2年度 (2018 年度)	第3年度 (2019 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	%	%	%	%
	レ 削減率(原単位ベース)	3.0 %	10.4 %	14.7 %	%
削減率(平準化補正ベース)		3.0 %	9.8 %	14.8 %	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(生産全工程数)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

順調	
----	--

(2) 推進体制

	工場長を責任者とする省エネルギー管理組織を組織するとともに、管理標準を作成し、体制を整備した上、省エネルギー等環境保全活動を行っていく。
--	--

実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市都島区東野田町 2005/11/25	氏名	シンドー株式会社 取締役社長 高倉 浩司
特定事業者の主たる業種		11繊維工業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		各種生地（主にニット生地）の染色、及び整理加工		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間				
2018年	4月	1日	～	2021年 3月 31日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2017)年度	前年度(2018)年度
温室効果ガス総排出量	3,474 t-CO ₂	7,892 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	4,960 t-CO ₂	7,913 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2020年度)	第1年度 (2018年度)	第2年度 (2019年度)	第3年度 (2020年度)
選択	削減率(排出量ベース)	%	%	%	%
	レ	3.0%	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		%	%	%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(生産量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>生産量の縮小、加工内容の工程時間の短縮による、品質悪化し製品の質を落としかねないためエネルギーを、使用することになった。加工内容の時短と品質とのバランスで削減できるようにする。</p>

(2) 推進体制

<p>営業部との連携を、品質、納期どうしても、厳しい取引会社による生産の安定性を確立し、品質で、短納期で加工することで、再加工をなくしエネルギー削減する方向性で進めている。</p>
--